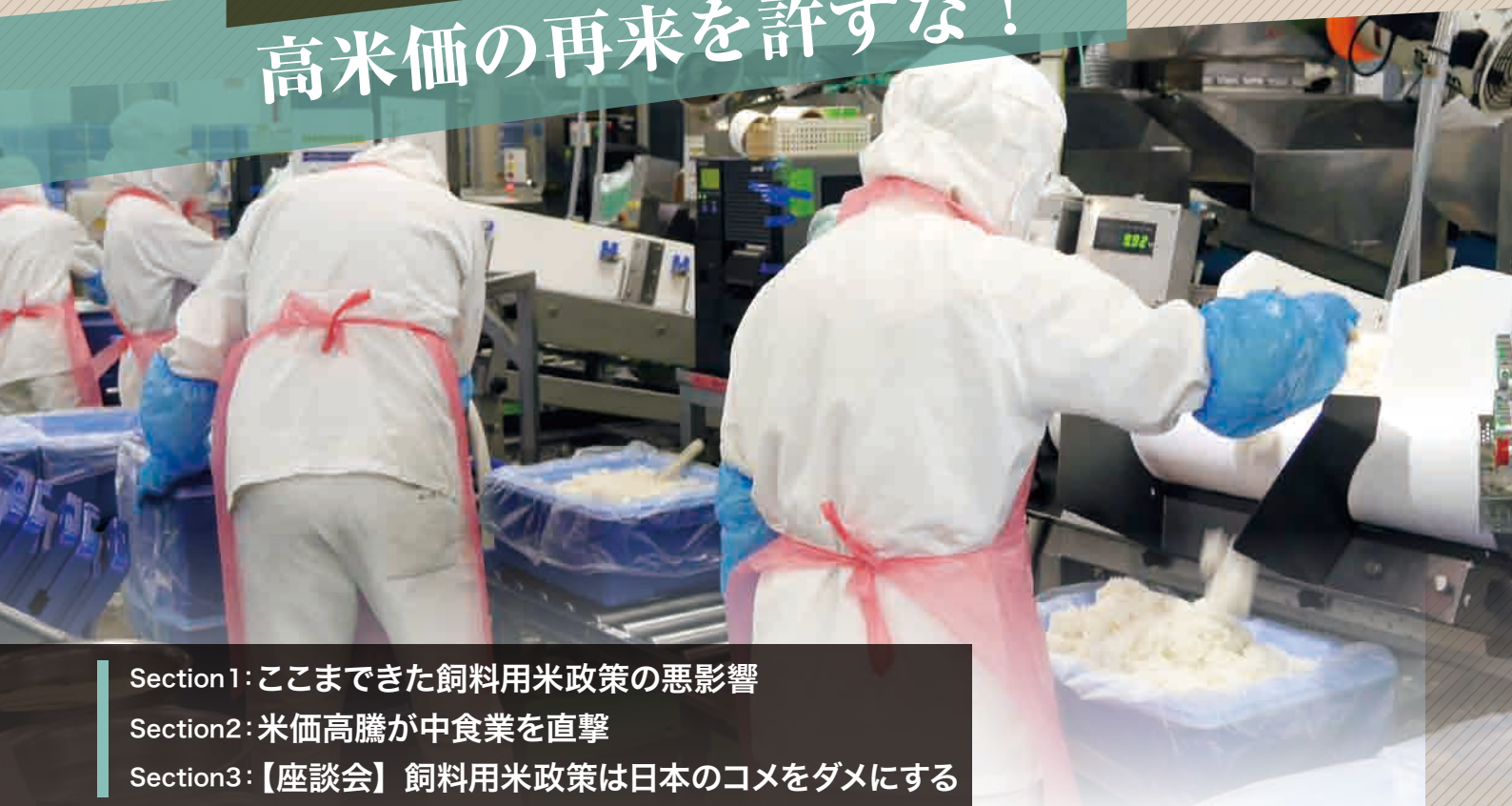


未来なき

特集

飼料用米政策

高米価の再来を許すな！



Section1: ここまできた飼料用米政策の悪影響

Section2: 米価高騰が中食業を直撃

Section3: 【座談会】 飼料用米政策は日本のコメをダメにする

コメ業界に3年前を再来させる出来事が起こりつつある。政策誘導の高米価だ。

農林水産省は都道府県に配分する「生産数量目標」で平成28年度は前年度より8万t少ない743万tに決定した。これは需要の見通しである762万tより少ない数字だ。

生産数量目標が達成された場合、民間在庫量は28年6月末に207万t、29年6月末に188万tになる見込み。188万tというのは米価が高騰した平成24年、25年と同じ水準である。需給をひっ迫させて米価を上向かせることを狙っているのは明らかだ。

農水省はこの目標達成に向けて27年度に引き続き、28年度さらに増産を働きかけるのが飼料用米だ。農家に高額な交付金をちらつかせて、水稻の作付けを飼料用米に引張り込ませ、主食用米の生産量を減らそうとしている。いうまでもなく、これは安倍政権が平成30年の実現を目指す「減反廃止」とは逆行するものだ。

こうした飼料用米への誘導による減反強化を背景にコメは値上がりしてきている。農水省が今年4月15日に公表した27年度に関する「米の相対取引価格・数量」。これによると、全銘柄の平均価格は前年同月比111%となった。しかも先物取引は出来秋にさらに高騰することを知らせている。

このままいけば水田農業の構造調整はさらに遅れる。同時にコメを扱う米飯や米菓などの産業の衰退も招きかねない。本特集ではコメ業界の未来を遮る飼料用米政策を検証する。

(窪田新之助)

ここまでのきた飼料用米政策の悪影響 関係業界に募る危機感

熊野孝文 米穀新聞社記者

水田フル活用の名のもとに強力に推進されている飼料用米政策。平成27年産は42万t、28年産は60万tの計画を掲げ、農水省はキャラバン隊を組織し、全国33道県で増産を働きかけている。特に生産調整未達成県である7県を重点県と定め、過剰作付け解消達成を目標として推し進めている。重点県のなかには千葉、茨城といった関東早期米の主産地が入っており、飼料用米専用品種でなくとも助成金を倍増するという対策が打ち出されたことから主食用早期米の生産量が減少、今年の端境期に早期米不足が起きる恐れが出てきた。

農水省は「需要に見合った生産」をことあるごとに繰り返し述べているが、流通や実需の現場では、必要とする加工原料米や業務用米の価格が急激に値上がりしており、飼料用米増産政策に対する不満や批判が高まっている。飼料用米増産政策によ

り、主食用米、加工用原料米に著しい影響が出始めており、こうした業界では飼料用米増産政策そのものを疑問視しはじめている。

加工原料米の急激な値上がり くず米が飼料用米に逆流

今年4月20日に東京・平河町で開催された全国米穀工業協同組合（略称全米工）の今年度1回目の東日本情報交換会の席上で飼料用米問題が取り上げられた。

全米工は加工用原料米の搗精・販売業者を主に組織される全国団体で、飼料用米政策を問題視している要因は、この政策により本来加工用原料米として供給されるべき低品位米（くず米）が飼料用米に使用され、供給量が減少、価格が高騰している一因になっているのではないかと懸念しているため。情報交換会ではこの問題について多くの時間が割かれ

た。どうしてこうした現象が起きるのか解説するには前置きが必要だ。

飼料用米の助成金は平成27年産から数量払いの助成金が新たに導入された。生産地の平年単収基準を上回る収量を挙げるとそのぶん助成金が増加せられる。全国平均では、平年単収基準10a当たり530kgを挙げれば8万円の助成金を受け取れるが、その収量を上回ると1kg当たり167円が加算され、最高680kgで10万5000円にもなる。

この規定に従った助成金を受け取るには検査を受けなければならないが、飼料用米の検査は主食用米と違い等級や銘柄の検査は必要ない。必要な項目は水分と異物混入だけである。このため飼料用米助成金を多く受け取ろうと思えば、くず米を増量原料として使用し、単収が増えた形にすればよい。

もちろん逆のケースもある。ある

産地で国の要請に従って飼料用米生産に取り組んだところ、その地区の作況指数が100であっても飼料用米の単収がそれに達しなかった場合、その生産者は飼料用米を主食用に横流ししたという疑いをかけられるのを恐れてくず米を増量原料に使用することもあり、こうした事例が現実にある。

少しくどくなるが、全米工の組合員にとって自らの商材である低品位米の供給量が減少することは死活問題なので、当日の情報交換会でどのようなことが話されたのかその概要を紹介したい。

まず、27年産米の低品位米発生量は、統計上で1・7mm下は10a当たり15kgで、総量では22万5000tになる。26年産との比較では2万7000t、約1割減少したという結果になっている。

加工原料米に使用される低品位米はそれだけではなく、その実態は複雑になるので省略するが、全米工の会議では、コメの需給データに精通している副理事長が「統計上では1・7mm下は前年産に比べ10%程度の減少になっているが、現状はそれ以上に供給量が減少していると思える。その原因として飼料用米に逆流しているくず米があるのではないかと」、出席社に意見を求めた。

出席社からは米菓やみそ原料に使用されるくず米の原料確保状況や在庫状況を中心に意見が出たが、要約すると原料確保状況は昨年の2割から3割減で、これから新米が出回るまでの供給余力はなく、メーカーに対してMA米を使用してほしいと要請している状況。

ただ、メーカー側も米菓業界は製品に国産米か外国産米を使用しているのか表示義務が課せられているため、すぐには使用原料米を変更できず、必要な国産くず米の確保に走っており、市中価格が出回り当初に比べ2倍以上に高騰している。

全米工は飼料用米政策がこうした副作用が起きることを予見し、農水省に対して飼料用米へのくず米逆流防止策を要請、これを受けて今年4月に農水省は要領を改正し生産者に対して「くず米寄せをしない」ことの誓約書を提出させることにした。

しかし、新潟県のように1・85mm下のくず米を飼料用に使用することを事実上容認している県もあり、誓約書提出が抑止力になるのか疑問視されている。

業務用米供給不足の要因に Bランク米は半減

飼料用米政策が与えている影響は加工原料米だけではない。中食・外

食業界が使用する業務用米にも著しい影響が出ている。

表1は中食業界が使用する数量が多い産地銘柄別の価格を昨年2月と今年2月で比較したもののだが、加重平均価格で15・7%も上昇している。このデータは農水省が毎月発表している相対価格から作成した。全銘柄平均では10・1%の値上がりだが、業務用米はそれ以上の値上がり率になっている。中食業界では、価格の上昇とともにこうした業務用米の供給量が減少していることも問題視している。

表に示した産地銘柄の昨年2月の取引量は約5万tあったが、今年2月は半分の2万5000tに減少している。

業務用米の取り扱いが多い大手商社系卸は「27年産米は関東だけで業務用米として供給されるはずのBランク米5万tが飼料用に転用された」と見ている。

中食・外食業界団体は昨年、農水省に対して主食用米への飼料用米混入、コンタミ防止策の要請を行なったが、さらに業務用米の供給不足によ

る価格の上昇を看過できない状況になったことから近く業界挙げて強力な政治的な要請活動を行なうことにしている。

端境期の早期米不足の恐れ 関東早期米生産量減

事態はそれだけにとどまらない。それは冒頭に記したように千葉、茨城といった関東早期米の代表的産地が飼料用米増産対策によって著しく生産量が減少する可能性が出てきたのである。

茨城県では、最も早く出回るあき

▶表1：業務用米品種の相対価格 (単位：60kg当たり円、税込)

産地	品種	平成28年2月	平成27年2月	上昇率
北海道	きらら397	12,554	11,259	112%
青森	まっしぐら	11,683	9,830	119%
青森	つがるロマン	12,003	9,612	125%
福島	コシヒカリ(中通り)	12,148	9,754	125%
栃木	あさひの夢	11,741	9,111	125%
埼玉	彩のかがやき	11,927	10,076	129%
千葉	ふさこがね	11,215	9,586	118%
千葉	ふさおとめ	11,164	10,004	117%
富山	てんたかく	12,737	11,825	108%
福井	ハナエチゼン	12,572	11,161	113%
滋賀	日本晴	12,353	11,314	109%
岡山	あきたこまち	11,781	11,330	104%
加重平均価格		11,911	10,299	115.70%

▶表2：過剰作付けの多い県 (単位：ha)

	1位	2位	3位	4位	5位
21年産	福島県	千葉県	茨城県	新潟県	秋田県
	12,060	11,800	7,498	4,219	3,957
22年産	千葉県	福島県	茨城県	新潟県	埼玉県
	11,621	11,338	7,070	4,403	2,551
23年産	千葉県	茨城県	新潟県	埼玉県	栃木県
	11,076	6,013	3,720	2,121	1,444
24年産	千葉県	茨城県	新潟県	埼玉県	栃木県
	11,300	6,600	4,100	2,400	1,400
25年産	千葉県	茨城県	新潟県	埼玉県	栃木県
	11,400	6,800	4,300	2,500	1,400
26年産	千葉県	茨城県	新潟県	埼玉県	愛知県
	11,500	6,900	4,900	2,700	1,500
27年産	千葉県	新潟県	茨城県	長野県	高知県
	9,100	4,600	3,800	1,000	1,000

▶表3：千葉県の生産調整の推移

	生産数量面積 (ha) ①	作付面積 (ha) ②	過剰作付面積 (ha) ③=②-①
20年産	49,786	61,791	12,005
21年産	49,730	61,610	11,880
22年産	49,180	60,610	11,621
23年産	48,692	59,768	11,076
24年産	48,200	59,500	11,300
25年産	48,000	59,400	11,400
26年産	46,800	58,300	11,500
27年産	46,100	55,200	9,100

たこまちの主産地である稲敷市で1000haの飼料用米生産計画が立てられ、地元の集荷業者は端境期に回るあきたこまちが払底するのでないかと恐れている。

茨城県は、異常とも思えるほど飼料用米に手厚い助成金を支給、自治体のなかには独自助成を行ない、なんと10a当たり15万円という助成金を支給するところさえあり、28年産は過剰作付けが解消するとまで言われるようになった。

さらに追い打ちをかけるように千

葉県で新たな飼料用米増産対策が打ち出された。

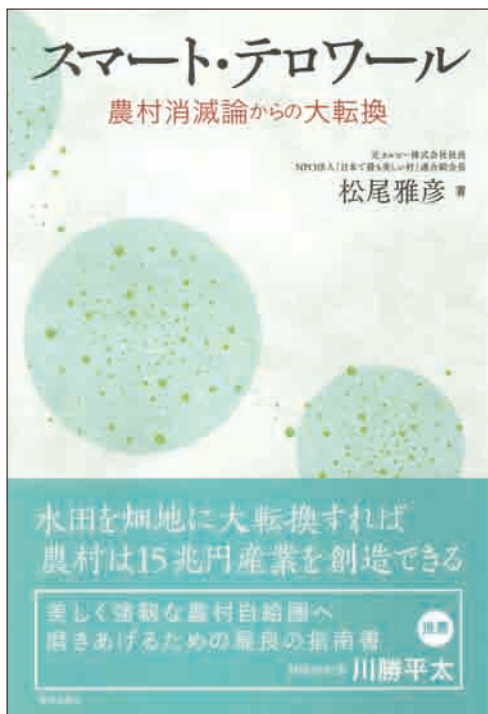
千葉県は4月25日に千葉市の自治会館に県内の農協、集荷業者、畜産業者、大手配合飼料メーカーを集め、飼料用米推進説明会を開催したが、このなかで県の独自対策として飼料用米専用品種や県の特任品種(初星、アキヒカリ)でない一般主食用米を飼料用に転用すれば昨年の倍額に当たる10a当たり3000円を支給する対策を打ち出した。

説明会では、コシヒカリを作付けし、主食用に販売した場合と飼料用米を生産したときの生産者手取りの比較表も配布されたが、それには2haの事例では飼料用米を生産したほうが24万5000円も手取りがよくないと記してあった。

千葉県の代表的早期米ふさがね、ふさおとめはコシヒカリより収量性が高い。そのため、こうした品種が飼料用米に転用される可能性が高くなっている。

流通業界の需給試算では今年10月末の在庫は10万t程度に減少、28年産米の作況が1ポイント下がると消し飛ぶような在庫であり、端境期の需給は綱渡り状態になりそうな環境でもあるにもかかわらず、早期米の生産を減らす政策がとられているのである。

スマート・テロワール 農村消滅論からの大転換



曖昧な活用の100万haの水田を畑地に 大転換すれば農村は15兆円産業を創造できる

限界集落、市町村消滅!? 本当だろうか。消滅どころか、農業・農村にこそ成長余地がある。その実現を阻んでいるのは、水田を偏重する「瑞穂の国」幻想だ。余っている水田や休耕田を畑や放牧地に転換し、その生産物を域内の工場で加工すれば、味はもちろん、価格も、輸入原料によるナショナルブランド商品に負けないものがつくれる。その商品を域内の消費者に新鮮なうちに届け、最高の状態で提供するとともに流通コストを抑える。ここで大切なことは高級品ではなく、日常食品でシェアを確保してこそ量のメリットも得られることだ。そうしてこそ、一部ではなく全体の復活につながる。曖昧な活用の水田100万haがよみがえれば、15兆円の新しい産業創造につながる(ジャガイモの生産と加工によるカルビーの工場出荷額から試算)。契約栽培で市場価格の30%オフを実現したカルビー元社長の「辺境からの変革」の提案。

松尾 雅彦 著 書籍 四六判・256頁 学芸出版社 刊

■ 1,944円(税込) + 郵送料360円

米価高騰が中食業を直撃 炊飯業「明治ライスデリカ」の対応

取材／平井ゆか



▲明治ライスデリカで生産されている二次加工コメ食品
▶埼玉県狭山市にある明治ライスデリカ。株明治の100%出資子会社である



店頭には並ぶ弁当や寿司、おにぎり。コメがこういった中食として消費される割合は、いまや20%以上を占める。とくににおにぎりはここ数年、「おにぎらず」のヒットや小売の販促などによって伸びている市場だ。

中食用のコメを炊く事業を専門とした、いわゆる日配の炊飯業がある。業界は大きく分けて2つあり、ひとつはベンダーと呼ばれるコンビニ専属の大手業者、もうひとつはスーパーや商業施設のテナント店などに納める中小業者である。

埼玉県狭山市に工場を構える明治ライスデリカは後者のひとつである。大小スーパーをはじめ、寿司を売る魚屋、百貨店のテナント、産業給食会社などが取引先だ。白飯や寿司用の酢飯、おにぎり用の塩飯、赤飯、酢飯を加工したシャリ玉など業務用の一次加工品のほか、おにぎりやいなり寿司、巻き寿司、それらの

盛り合わせなどの二次加工品が専門だ。一次加工品の白飯や酢飯は、スーパーのバックヤードで弁当になったり、寿司になったりして店頭に並ぶ。

前年比1割以上の 原料価格変動はおかしい

明治ライスデリカでは、毎日約10数tのコメを使う。原材料のうちコメは金額ベースで半分以上を占める。人件費や機械、物流費などを含めた商品原価全体でもコメのウェイトは大きい。

農林水産省が発表する相対価格は加重平均で、平成27年度産が対前年比120・1%に上昇した。

「当社はまさに、その渦中にいます。食品の原料のなかで2桁%も変動することは通常あり得ませんよね」

穏やかな口調の代表取締役社長・奥正明氏が言葉に力を込めた。

中小の炊飯業者の経常利益は売り



明治ライスデリカ代表取締役社長の奥正明氏。明治乳業(株)(現・株明治)を経て、2013年4月より現職

上げの数%である。原価は利益に直結するため安定した経営が難しくなる。平成24年に米価が2〜3割程度上昇したときは、売り上げが伸びているにもかかわらず、経営計画で想定した利益が出せず、非常に厳しい経営状況に陥った。

コメの調達はその年の収量、品質、価格動向により、契約方法を決めている。幸い、年末までの必要量は確保できたが、今回も4月以降、値上げのダメージがじわじわと経営を圧迫する。

「米価の乱高下によって、会社の損益が大きく左右されるのは、事業の取引としておかしいと言わざるを得ません」

日配の炊飯に使われる主食用米は、ブランド米ではなくB銘柄が多い。そんななかにあつて、明治ライスデリカは特Aや商品に合う銘柄にこだわり、主に山形県と岡山県の単協と連携して調達している。一部、卸を通しているが、明らかに供給量が不足している。例年に比べて、確保に苦勞せざるを得ない状況であった。

「高くても、おいしいものづくりにこだわるのが会社のポリシーですから、他の安い銘柄をスポット買いはしません。品質を安定させる意味も含め、限定した産地から購入して

います」

コメの調達先を限定しているのは、もうひとつ大きな理由がある。原材料のトレーサビリティの確保だ。どこのコメを、どんな経路で持ち込み、どのタンクを通過して炊飯の釜に入るのか。万が一、お客様から何か指摘があった場合、その原因を特定するため経路をたどる必要がある。そのため、スポット買いで安いコメを入手するのは得策ではない。

炊飯業の構造不況化も招きかねない状況

コスト吸収を図るため、いままも生産効率を上げたり、物流を見直した



寿司用のシャリ玉

りするなど、さまざまな手段を講じている。

二次加工品のご飯の量を減らす。外食産業のメニューや、おかず入りの弁当であれば、その選択肢もあるだろう。しかし、明治ライスデリカはその選択肢をとってはいない。その理由は、その商品に見合うご飯量があり、おいしく食べてもらうためだ。

自助努力が追いつかずコスト吸収できる範囲を超えれば、価格転嫁して取引先に負担を頼むしかない。年明けからその交渉が続けているが、客先も消費者心理を考えると価格転嫁は難しい状況にある。

とくにスーパーの中食市場はまだデフレから脱却できていない。コンビニと異なり、スーパーではおにぎりは1個100円以下が相場という感覚も根づいている。また、巻き寿司やいなり寿司のセットは298円や398円といった値付け方法も壁になっている。

いわゆるプライスリーダーが価格を決められる業界とは異なり、中小企業の炊飯業界のなかでは、先陣を切って値上げに踏み切ることはいかない。

強く出れば、他の安い商品にとって代わるだけだ。

コメの価格変動は、いまや日配炊

飯業界の構造不況を招きかねない状況に至っている。

信頼を裏切らないための経費も増加

奥正明氏は、炊飯業は労働集約型の産業だと話す。職場を提供できる一方で、昨今の労働力不足の問題はこの工場も例外ではない。労働賃金の上昇に加え、ここに来て米価の上昇に苦しめられている。

さらに経営を圧迫しているのが、「食の安全・安心」という要求や期待に応えるための設備や経費だ。

従来は衛生性の管理や、金属探知機を通すといった品質チェックに重きが置かれていた。それに加えて現在はユニフォームや工程記録カメラなどのための投資コストがかかるようになった。

「ひとたびお客様の信頼を裏切るような事態になれば、その親会社まで立ち直ることが難しい世の中です。安全・安心を確保するための投資がいままで以上にかかりますが、これについてはお客様への転嫁をしないのは自明の理です。やはり常に安定した調達ができて、安定した適切な利益を出さなければ、安心して購入していただけない時代になっていきます」

炊飯事業の現場 明治ライスデリカ狭山工場



コメの計量と洗米も自動化されている



浸漬・加熱・蒸らし。4段のベルトコンベア上に釜が並び、段を変えながら自動炊飯



ほぐし。炊き上げたご飯を
ほどよく空気を抱き込みほぐす



おにぎりの製造ライン。
具を入れたり海苔を巻く作業は人の手による



ピッキング・仕分けには
多くの従業員が携わる

明治ライスデリカが炊くコメは、産地から直接調達されている。工場に届いたコメは、納米室の保管用のタンクを経て炊飯室に送られる。

計量から洗米、浸漬、炊飯、蒸らしまですべて自動化されており、昼夜を問わず一日中、炊飯作業が続けられる。

工場2階の炊飯室に入るとコンベアの上に釜がずらりと並んでいる。大人が両腕でつくる輪よりやや大きなサイズの釜が全部で260個。

4段のコンベアに並べられた釜はゆつくりと70分かけて進みながら浸漬され、ガス火がついた39個のかまどのラインに移動する。

20分間加熱された後、今度は30分間かけてトンネルを通りながら蒸らされる。

炊飯事業は労働集約型

蒸らし終わったご飯は専用エレベーターで1階に送られる。

1階は景色が一変し、多くの従業員たちが働いている。手作業の工程が多いからだ。ほぐし終わった白米や酢飯を箱詰めしている。この段階で出荷されるのが一次加工商品である。

二次加工の商品の製造室に入るとさらに人が増える。

おにぎり、いなり寿司、巻き寿司、盛り付けをするラインそれぞれに数名ずつが付き、流れ作業で仕上げていく。たとえば巻き寿司なら海苔の上の酢飯に、キュウリをのせる人、玉子焼きをのせる人、かんぴょうをのせる人がいるといった具合だ。

包装まで終わると、商品は出荷

先ごとに仕分けをするピッキング室に送られる。

工場内を案内してくれた生産技術課長・鷺尾隆一氏の「おはようございます」の声に応え、あちこちから「おはようございます」の声が飛んでくる。

パートといえはお母さんたちというイメージとは違い、比較的若い男女の従業員も多く、互いに作業の確認の声を掛け合いながら楽しそうにテキパキ働いている。

鷺尾氏によると、商品化やピッキング作業は日中だけだが、工場内だけでのべ約300人のパート従業員が交替で働いている。

厳密な衛生・安全管理は必須

工場に入るには、商品の衛生性や安全性にかかわるさまざまな準備が必要だ。

病原菌を施設内に持ち込まないための体調チェックに始まり、異物が商品に紛れ込まないよう持ち込めるものは限られる。靴を履き替え、ポケットのない全身を覆う白衣と手袋、帽子、マスクを身につける。露出しているのは目だけである。

準備ができたなら、髪の毛やほこりを払うためのエアシャワーを浴び、30秒以上の手洗いをする。ドアは手を消毒しないと開かない仕組みになっている。

施設内を見回すと、あちこちに360度撮影できる工程記録カメラが設置されていた。この工場には110個もあるという。

このカメラは、お客様から何か指摘があったとき、商品が正常に作られていることを証明するためである。

飼料用米政策は日本のコメをダメにする

熊野孝文、千田法久、福田耕作、昆吉則（司会）

昆 本誌が農業経営者と呼ぶ人は、事業規模の大小は関係なく、マーケットや時代を理解したうえで自ら農業の経営主体になろうという人、農林水産省の作男にはならない人のことです。そう考えて創刊から22年やってきましたが、農業のなかでコメの問題はいまだに治らない最大のがんです。政府はコメを隔離して飼料用米の政策を始め、いまは一度下がったコメの価格を上げようとしていますが。同時に、昨年の10月ごろからSBS制度のコメの成約率が上がってきています。まずいまの状況をどう捉えているかお聞かせいただけますか。

熊野 飼料用米の影響で、業務用米の価格が上がっています。今年の端境期には、たいへんなパニックが起る可能性が高い。飼料用米への転作の圧力のかけ方を見ると、今年はとくにひどいですね。たとえば早場

米産地の千葉のふさがねや茨城のあきたこまちのような早期米の主食用品種でも、飼料用に転用すれば助成金を倍額出すからとにかく飼料用米を作れと。あきたこまちは主食用には、ほとんど作れないですよ。

千田 私たちは、売れるコメ作りというキーワードを産地に投げかけてきました。平成27年度産も28年度産も、私たちはこれだけ必要です、絶対買いますと産地に言っても、「申し訳ない、主食用米を作る面積が足りないから、希望の量を出せない」と言われます。いままでの契約が壊され、いったんリセットされてしまいました。過去にも同じようなことがありました。飼料用米の政策は、あまりにも実需者と消費者を馬鹿にしていると思います。

福田 私は乳業業界にいたあと、炊飯業界に入りましたが、コメの価格の決め方が不透明なことに不自然さ

を感じました。誰が生産者米価を決めるのか、誰が相対価格を決めるのか。あまりにも政治が関与していることに問題があると思います。政治が市場価格に介入してくることが私は極めて不愉快です。

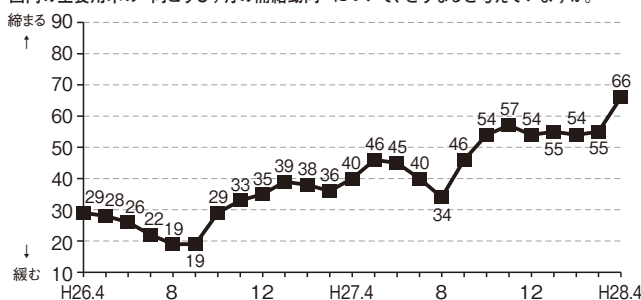
熊野 同じコメでも飼料用だと価格が安い。用途限定米穀に対する助成金によって価格がねじ曲げられる。だから透明で公平な価格なんてできないんです。助成金でコメの価格を変えていくと、こういう副作用があるので、マーケットをにらんだコメの生産ができないんですよ。

飼料用米の補助金がモラルハザードを起こす

昆 米政策改革大綱で平成16年から生産調整は生産者または生産者団体が主体となつて行なうという方向性があり、本当は平成21年にそうなることとしていたのですが、政治の混

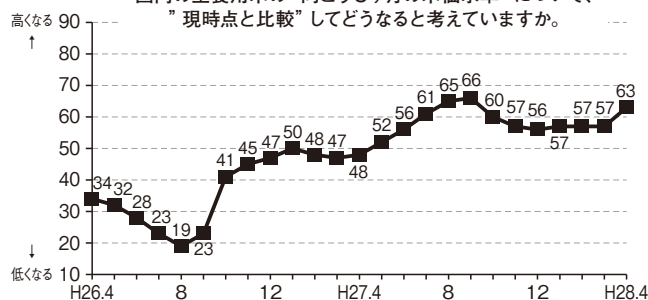
▶国内の主食用米の需給及び価格動向に関する判断（コメ取引関係者に対する調査）

国内の主食用米の”向こう3ヶ月の需給動向”について、どうなると考えていますか。



出典：米穀安定供給確保機構「米取引関係者の判断に関する調査」（平成28年4月）

国内の主食用米の”向こう3ヶ月の米価水準”について、”現時点と比較”してどうなると考えていますか。





熊野孝文 (くまの・たかふみ)
株米穀新聞社記者

1954年3月鹿児島県生まれ。コメの専門誌記者として30年以上現場を取材。豊富な知識と情報をもとに、業界の動きを深く洞察し発信しつづけている。



千田法久 (せんだ・のりひさ)
千田みずほ株代表取締役社長

1957年10月東京都生まれ。日本電気(株)勤務を経て、千田みずほ(株)へ。現在、(株)ジャンボリア社長を兼任。農林水産省「米取引に関する有識者懇談会」および「米の安定取引研究会」委員、全国米穀工業協同組合理事、全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会理事、ほか。



福田耕作 (ふくだ・こうさく)
日本炊飯協会会長

1929年4月東京都生まれ。明治乳業(株)専務取締役、明治ライスデリカ(株)代表取締役会長を経て、2005年退社。1993年に日本炊飯協会を設立。農林水産省各種研究会委員・国産米使用推進団体協議会会長兼務。2006年藍綬褒章受賞。

(司会) **昆吉則** 本誌編集長

乱でその道筋が崩れてしまった。さらに飼料米政策が出てきて、ムチではない強烈に甘いアメの政策により、食管法の時代より強力な生産調整をしています。生産者にアメを与え、糖尿病にして廃人にしようとしている。まともな経営者たちも変わっちゃうんですよ。意欲ある人をつぶすことになって、ますます日本の水田農業は危うくなります。それではいつまでたってもイノベーションが起きません。

福田 補助金の額はすごいですね。新聞がいくら騒いでも世論で問題になりません。

千田 一般の人にはわかりにくい。最大10万5000円の補助金を国民が税金で負担しています。消費者からしたら往復ビンタですよ。許されるはずなんですよね。

熊野 カネと制度で縛るといんな

悪いものが生まれる。これはビッグチャンスだと言って飼料用米にくず米を平然と混ぜている人もいます。混ぜればくず米で167円/kgもらえるわけですから。

昆 モラルハザードが起きることをあおっていますね。

熊野 生産者を責められないですよ。たとえば新潟県は1・85mm下のくず米を寄せて飼料用米に混ぜていいと言っています。

昆 規制があればあるほど闇がおいしいっていう世界ですよ。

熊野 飼料用米か主食用米かはチェックしていません。でも業者が悪いことしているんじゃないかと徹底的に調べるんです。主食用のくず米を飼料用米に混ぜないように誓約書を書かせるんですよ。実際にそういうことをしているとところがあるのかって聞いたら、「報告がないからない」。

事故米とまったく同じです。

千田 くず米が少ないので全米工が陳情に行ったら、すぐに誓約書を書かせますからという対策をしました。できないことがわかっていて形だけやるというツギハギの繰り返しですよ。

福田 政府が関与しすぎなんですよ。じつは私はこの飼料用米の政策ができたときに賛成しました。耕作放棄地がなくなると聞いたので。それが補助金の話を聞いてとんでもない話だと思いました。でも、決めた人間は、日本の将来のことを考えているんじゃないかと考え直しました。性善説ですね。

昆 補助金付き大規模家庭菜園という怒られるんですけど、コメを作っている人たちの多くは赤字でも楽しいから趣味でやっています。そういう人たちにまで、補助金を出す必

要があるんでしょうか。

熊野 米穀新聞は流通向けの新聞なので、言わなければいけないことがあります。流通を担う人たちは、こういう問題についてきちんと発言しなければダメです。実需者も困っているわけですから。

腑に落ちない政策の裏に何があったのか

千田 この意図はなんなんだろう。選挙までに今年の制度が決まりますから、平成30年を迎える前に28年産でみんなダメになっちゃいますよ。飼料用米に何百億円も使って主食用米の価格を上げる政策をとっても、この先どうなるのかまったく見えません。将来的には飼料用米を3倍ぐらいいに増やすと言っていますが、それは部分政策でしかありません。平成30年に向けての予行演習だと言

▶平成27年度米の相対取引価格・数量（平成28年3月速報）

（単位：円/玄米60kg税込、玄米トン）

産 地	品種銘柄	価 格			数 量		
		27年産米 (28年3月)	26年産米 (27年3月)	対前年比	27年産米 (28年3月)	26年産米 (27年3月)	対前年比
加重平均価格		12,191	10,089	120.8%	—	—	41.8%
北海道	きらら397	12,466	11,127	112%	10,709	9,950	108%
青 森	まっしぐら	11,833	9,710	122%	4,765	32,756	15%
青 森	つがるロマン	12,075	9,780	123%	1,821	3,286	55%
福 島	コシヒカリ（中通り）	12,029	9,815	123%	3,297	6,475	51%
栃 木	あさひの夢	11,653	9,318	125%	547	9,996	5%
埼 玉	彩のかがやき	12,730	9,707	131%	454	2,727	17%
千 葉	ふさこがね	11,417	9,927	115%	1,562	4,508	35%
千 葉	ふさおとめ	11,251	10,676	105%	1,648	2,251	73%
長 野	あきたこまち	12,486	11,395	110%	3,186	1,060	301%
富 山	てんたかく	12,230	11,707	104%	739	1,357	54%
福 井	ハナエチゼン	12,554	11,228	112%	4,415	4,931	90%
滋 賀	日本晴	12,007	11,234	107%	918	2,730	34%
岡 山	あきたこまち	12,001	11,556	104%	455	459	99%

出典：農林水産省、銘柄抽出：日本炊飯協会

※炊飯業界の業務用米として比較的使用量の多い銘柄を抽出

い方をしますが、いったいなんの予行演習でしょう。主食用米の価格を上げるためか、飼料用米を拡大するためか、いずれも腑に落ちません。昆 この政策の背景には何があると思いますか。

ただ使って自給率は上がっていません。こんな政策ありえますか。はつきり言って利権によるものですか。福田 財務省が提言しましたよね。ところが農林水産省ではまったく問題にしませんよ。

千田 政府がキャラバン隊組んで行って知事に強制的に飼料用米の数字を達成しろという理由がわからない。生産者のため、または票を集めるためであれば、直接補償すればいいと思います。有償で流通している主食用米で約600万

ト、農家保有米で約150万トあります。600万トのほうに、仮に1俵当たり6000円、計600億円の補助金を出せば、競争力のある価格で流通できます。それをやらない理由は高い価格を維持したいということですね。つい2、3年前、農林水産省は需給調整の介入は一切しませんでした。それなのに、これだけあからさまに介入して

いるのは不自然ですよ。最近は何の介入を隠しもしずにやっています。この変わりようはなんだろうと思ってしまう。

昆 転作への政府の関与をなくすと建前で言った一方、飼料用米以外に転作物の想定がなかったわけですね。そのなかでTPPも農協改革もやらなきゃいけなかった。あれほど財務省が騒いだのに蹴飛ばしたのは、飼料用米と農協改革との裏取引があったというストーリーも考えられると思うのですが。

熊野 私の見立てでは、明らかに全農は初めのころ、飼料用米にそんなに積極的ではありませんでした。それがなぜ急にやり始めたか。全農が作った水田活用米穀の制度が、組織を維持するためにものすごく便利なものだからです。飼料用米として主食用品種を作れと。どうやって転作できるじゃないですか。農協系にとって最高のモデルです。それを農水省は容認したんです。今年の予算には飼料用米の多収穫の研究予算がないですよ。

昆 農水省は当初、転作する作物として飼料用米しか知らなかったわけですけど、我々がいま取り組んでいる飼料用トウモロコシも理解されつつあります。それを見ると、あいか

ためではないかと思うのですが、それについてはどう思われますか。

千田 最初は選挙対策の可能性も高いと思っていました。もしそうだとしたら何十年、同じことを続けるんでしょう。国民を馬鹿にしている政策だと思っています。米政策改革大綱も壊しつつありますね。「我こそは日本一！飼料用米多収コンテスト」というのがあります。これは補助金を一番もらった人が農林水産大臣賞をもらえるコンテストです。生産者への配慮だとしてもやりすぎだと思います。

飼料用米政策は 主食用米の価格を上げるだけ

昆 飼料用米の政策をこのまま続け

千田 平成30年から7500円の補助金がなくなりますよね。そのとき飼料用米の補助金が続いていけば、そちらに生産者が移っていきます。食糧管理法よりも強制的なんです。おカネをちらつかせて暴力的にそちらに持っていくのでは、将来はないなと思います。

昆 同感です。

千田 平成23年の東日本大震災のときに価格が高騰して、翌24年はさらに上がりました。そのとき、SBS

制度の10万t枠がほぼ埋まるぐらいの量が入ってきました。それを見た米国はどう思うでしょう。日本のコメの値段が上がれば米国のコメが主食用に入る、しかもテールライスとして流通できると思いますよね。

あくまでも私の推測ですが、TPP交渉で、日本に米国産のコメが入る市場をつくるという裏交渉があったのではないかと考えてしまいます。

米国から7万t、豪州から8400t、計7万8400tの国別輸入枠が設けられました。これは必ず買わなければならないということではないとか、政府が買い上げてその影響を遮断するとか言っていますが、米国は買えと言ってくるでしょう。また、備蓄米の買い入れ枠上限100万tは変えませんが、期間を5年から3年に短縮するので、毎年20万tから33万tに増えます。日本のコメが高くなれば、米国のコメが10万t、15万t入ることができます。おカネを使つて、主食用米だけを上げているとしたら、TPPとのなんらかのつながりがないかぎり説明できないというのが私の見方です。

昆 なるほど。米国の圧力説ですね。米国が日本のマーケットを狙うのは当然かもしれません。国産米の価格が上がれば、輸入米が入ってくると思っています。

熊野 いまは大々的に輸入米のセールスをかけている大手卸さんもいらつしやるようですよ。

寿司米が輸入米に乗っ取られる可能性も

昆 炊飯業界としてはどうお考えですか。

福田 炊飯業界では、酢飯のシェアが最も大きいんです。先日、農林水産省に行つて話してきたことがあります。備蓄で輸入米を遮断すると言うけど、見落としていることがある。米国から入る7万tのコメは、寿司に一番合うコメだよと。日本でいちばん寿司に合うコメは、かつてササニシキと言われていましたが、その後はきららなどに切り替わりました。それよりはるかに米国のカルローズが寿司飯に適している。一度入ってきて使い出したら、品質はいいですし、国産に戻らなくなると思えます。米国は、それをちゃんと見ているはずですよ。日本の寿司飯はがらりと変わつて、みんなカルローズになつてしまします。日本はなぜそれを読み切らなかったのか。

昆 カルローズに限らず、米国の品種はどれも生産技術においても流通過程においても過乾燥になります。乾燥して酢が乗りやすい。重要な指摘だと思いますが、千田さんはどう

お考えになりますか。

千田 国産なら、寿司飯には岡山のアケボノのように大粒で硬くて酢の乗りがよいものが好まれます。カルローズはやはり大粒で硬い。国際流通のために水分値も低くしてあるので、酢を打つてもべたつきません。結果論かもしれませんが、粒感をしつかりと保つた食感のよい酢飯ができてしまいます。それは間違いありません。それを米国が知っているかはわかりませんが、需要が増えれば供給も増えるでしょう。カリフォルニアのカルモチは赤飯やおこわに向いています。日本のもち米のようにだれてしまわずに、粒感がしつかりした仕上がりになる。日本でもアケボノのように従来は粒感のしつかりした品種があったのですが、最近では粘るコメが一番よいと思われるようになっていきます。

昆 業務用としての加工適性は、輸入米が日本の市場に入る大きな要因になるよということですね。

千田 日本では加工適性があまり考えられてきませんでした。ですから加工メーカーをスポイルして酒米も減らしながら、甘くて粘りのある主食用米を一生懸命作ってきた。気がついたら加工適性のよいものがなくなつてしまつています。

昆 みんな主食用米が輸入されると

全体のマーケットが小さくなるという話や、主食用米は入ってこないという話をしていましたが、じつは業務用で侵食される可能性があるということですね。豪州やベトナムのコメについてはどうですか。

海外産米の品質は上昇一途

千田 豪州は生産量も少ないですし、豊凶の差が年によって非常に大きいので安定原料としてはどうかと思います。一方、ベトナムは可能性がある。在来品種や日本の品種などいろいろ入り乱れています。良質のものが出てきています。

熊野 昨日、タイで大々的に日本米を生産しようという人に会いまして。タイであきたこまちを200万t生産して世界中の日本食マーケットに140万t輸出しようと言っています。レベルの高いあきたこまちです。生産が追いつかないぐらいの注文が来ているそうです。日本米の自家は飼料米におカネを注ぎ込んで、日本の米作を死に体追いやるうとしていっているんですよ。

昆 いまのMA米の用途はなんですか。米国産のMA米のうち、追加分は別として。

千田 米菓と味噌です。

昆 SBS制度のコメは、国産米の

価格が下がれば入ってきませんか。

千田 会社の業績を左右するような場合は外国産をやむなく使っています。国産の価格が下がれば、そちらを優先的に使いたいというのは常にあると思います。

昆 その価格水準はどのラインなんでしょう。

千田 平成26年産並みの価格だと思っています。ただ23年、24年にカルローズを使った外食さんは、まったく問題がなかったことです。価格が下がったあたりも一定量はブレンドして使いつづけているところがあります。米菓さんも外国産米を使って包装に書いてもまったく影響がなかったそうです。米菓業界では国産100%のメーカーは数少なくなりました。

いまのところ消費者の国産信仰がありますので、主食用米は国産でいきたい。ただ若い人たちが中心に業務用の主食が外国産米だとしても、品質も遜色なくて価格に納得すれば、どんどん定着していくのではないかと。日本に小麦が入ってきてパンが定着し、乳製品も入ってきています。あれも米国の戦略があったと思うんですね。

昆 ありますね。

熊野 外食業界ではカルローズは定着しますよ。実際にキロ170円で売り込んでいるところがあります

よ。いま国産の業務用米の安いもので220円ですから、それより50円安い。

昆 東南アジアのコメはどうなんですか。

熊野 以前は食べたもんじゃなかったですが、いまはすごくおいしくなっています。

千田 基本的に日本のコメと変わらない品質のものができつつありますね。

福田 中国の黒竜江省のコメは、人によっては日本のコシヒカリよりおいしいと感じます。それは怖いですが、初めはそのコメでチャーハンをうまくつくれませんでした。が、搗(とう)精を直したらよくなりました。

千田 肉にしても魚にしても、国産じゃなきゃダメだっていう人が少なくなっていますよね。国産の価格が上がれば外国産米が入ってきて、意外とおいしいということになったり、市場ができます。コメは毎日なしいは頻繁に食べるので、家計にとっては安ければ安いほどいいんですよ。生産者の手取りが瞬間的によくなったからといって喜んでいられないと思います。

昆 そうですね。

千田 海外農地では日本の品種がどんどん増えてきて、技術もどんどん上がってきている。このままいった

ら本当に日本の農地がダメになってしまします。

昆 おっしゃるとおりです。日本のコメ生産者業界が取り組まないことが、一番悔しい。

千田 いわゆる生産者支持推定値、プロダクトサポートエスティメイトというのがあって、それを見るとコメの生産高1兆6000億円に対して国民は1兆円負担しているんです。さらに価格を上げておいて輸出拡大しろと言っていますね。

昆 話にならないですね。

千田 輸出してもいいですが、どんな面積減らしているのか、用途限定の新規需要米として作付けをします。輸出するにはマニフェストの書類も必要になります。

昆 余計な経費がかかるということですね。

千田 しかも輸出用のコメには補助金が出ないので、生産者にとつては一番やりたくないものです。なぜ輸出推進というのかという話ですよ。

契約栽培と低コスト生産のセットが可能を生む

昆 早く1俵1万円で売れるような経営体制を整えなければいけない。そのためには実需者も生産者も業界がこぞって痛みを伴いながら整えな

ければならないと思っています。実需者の立場からご意見をいただければいいですね。

福田 川下の人間の私から見ると、川上の生産者はよく産業として成り立っているなど驚きますね。

昆 それが趣味でやっている人たちです。ビジネスファーマーは産業としてやっています。

福田 この『農業経営者』(2014年12月号)のコメの生産費調査の記事を読んで、私は火をつけられました。それで私なりに調べて、コメの生産原価に5%の利潤を加えた価格で生産者から買い始めたところなんです。1万円で買う、1万円以下で売るといふやり方。相場主義ではなく原価主義ですね。そうしたら、それで売りたいという生産者たちがけっこう現れました。ビジネスファーマーの芽生えとも言えるんじゃないでしょうか。補助金は事業外収入にしています。

昆 本誌の読者たちには、1万円だったから売るといふ人は多いと思います。平成30年には、補助金の7500円がなくなるわけですから。読者のなかには、7500円ぐらいで生産している人もいます。さらにコメだけではなくて、輪作全体を考えればもっと幅が出てきます。一番の難物は地代が地域によって違うことで

す。

熊野 複数年契約でコストベースの契約栽培がいいんです。それなら実需者にとっても生産者にとっても安定するし、いい仕組みだと思います。

ただし、その価格を決める市場がしっかりしていないと……。原価のなかの資材だの原油だのいろんなものが変動しますから。

昆 おっしゃるとおりですね。ところが、おおよそでも生産原価がわかる人は数%だと思います。

熊野 実需者からのそういう提言は、ものすごいインパクトになる。

昆 外食事業をやっている商社のようなところも、そういう契約をしようということに動き出しますね。

福田 火付け役はこの雑誌ですよ。私ははじめ、生産者は集まらないと思ったんですが、いま28人の生産者が来年からやるよと乗ってきています。前向きの生産者がたくさんいると思います。すぐに1000人は集まるでしょう。私たちは安定的なビジネスをしたいので、安定的な生産者の方を得たい。

昆 私たちも常々生産者たちに、コメを高く売ることより、たとえば契約栽培で経営は成立するんだよと言っています。

福田 そういう事例をどんどんつくるしかないですね。

千田 我々もそうしたい。でも平成26年産のように価格が下がると、我々流通業は買い手から下げると言われてしまいます。

福田 私たち実需者は、下がっても下げろと言っちゃだめだと思いません。たとえば、価格が安くなったときに、関東のコシヒカリを売りに来た大規模生産者さんがけっこういまして。8500円で買ってくださいと。来年もその価格かと聞いたら来年は別ですと。私たちは安定経営をしたいので、それではだめだと話して、相場主義で買うとそうやってしまうから、原価主義で買いたしようということになりました。その人たちとはいまでもつながっています。

昆 精米や貯蔵はどうされているんですか。

▶主食用米の4割が中食・外食として消費されている

主食用米の需要量	785万t/年	100%
中食業界のコメ使用量	165万t/年	21%
外食業界のコメ使用量	155万t/年	20%

資料提供：国産米使用推進団体協議会

福田 精米したものが欲しいので、

地元の単協に入ってもらっています。いまのところは量は量も少ないので2月までにすべて買い取っています。与信の問題もきちんとしないといけないですね。

昆 契約栽培は日本の農業に大事なことだと思っています。でも農業界は産業界にインテグレートされるとものすごく反発してきました。そのなかで成果を挙げたのがカルビーとジャガイモ生産者です。カルビーは商品開発やマーケティングのほかに倉庫に投資した。コメでいえば精米設備や貯蔵設備に投資するようなことですね。いままでは農協が補助金でやってきたことですが、どこかでやはりマーケット側が投資しないと苦しくなると思います。

千田 私たちも、良心的な価格でやってくれた生産者は12月末に一括決済です。量が増えたとインフラを1年間使用するわけですから、資金繰りとか、保管の問題とかは必ずついてまわります。

福田 おっしゃるとおりですね。

熊野 その事業は米穀周年供給・需要拡大支援事業の助成対象になるんですか。

福田 関係ありません。国とは関係なくやります。私はマイナス面だけではないと思いますよ。考えて経営

するコメの生産者が出てくる。

昆 確実に出ています。ですが、飼料用米政策のようなものに妨害されてほしくないと思っています。

福田 私も妨害されると思っています。ところが飼料用米は関係ないという人たちも多いですね。

昆 そういう考えを持っているのが本誌の読者たちです。原価の話をしなすと、そもそも畑作技術体系でやれば、作業コストが下げられる。普通、機械1セットで30haの作業が限界ですが、畑作体系でやれば100haできる。コメに限らずあらゆる作物は、種まきまでにどこまでの仕事ができるかで経営できる面積が決まります。従来のロータリーハローを使うと時速2・5kmですが、プラウを使うと時速6kmになります。生産者のそういう努力と契約栽培はセットでやらなければいけない。コメだけに依存するのではなく、飼料用トウモロコシを輪作に加えるという選択肢もあります。面積当たりの収入で考えるのではなく、コメや麦・大豆・トウモロコシなどを含めた投下労働時間や投下資本、つまり経営全体で考えるというセンスを農業経営者たちに持つてほしいですね。政治や政策の問題というよりも、一つひとつ現実を変えることでしか、変わっていかないと思います。